

項目		説明
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	腹腔鏡下胃切除術における術後合併症発症のリスク因子
	研究目的	近年胃癌に対する腹腔鏡胃切除は急速に普及しており、手技的にも確立されつつある。しかしながら依然として術後合併症により重篤な状態となる症例も散見される。術後合併症のリスク因子を解明することは術後合併症を予防する上で重要である。本研究は胃癌に対する腹腔鏡下胃切除例の術後合併症のリスク因子を明らかにすることを目的とする。
	研究対象者	2013年2月から2018年2月まで胃癌に対し腹腔鏡下に幽門側胃切除または胃全摘術を施行した490例を対象とする。
	研究期間	西暦 2020年3月25日 ~ 西暦 2025年3月31日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)		<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・便) <input type="checkbox"/> その他(記載して下さい) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録
試料・情報の 管理について の責任者	当センター 研究責任者	大島貴
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診 療科/部局等	消化器外科 胃食道
	共同研究の場合、共同 研究機関および各施設 での研究責任者	なし